

認第 1 号 平成 30 年度磐田市一般会計歳入歳出決算 賛成討論

絹村和弘

私は、認第 1 号 平成 30 年度磐田市一般会計歳入歳出決算の認定について、賛成の立場から討論を行います。

平成 30 年度の日本経済は、国のこれまでの様々な施策の実施と世界経済の回復に伴い、輸出や生産が持ち直してきたことを背景に、雇用と所得環境の改善が続くなど景気の回復が続いた状況にありました。こうした中、平成 30 年度の磐田市一般会計決算は、実質収支が約 17 億円の黒字決算となりました。

歳入面では、ふるさと納税寄付金が前年比約 7 億円の減額がある中、歳入の根幹をなす市税収入が、緩やかな景気の回復基調が続いたことや有効求人倍率の上昇等を反映し、個人市民税は給与所得を中心に前年比+1 億円、また、法人市民税は輸送・機械製造業を中心に前年比約 3 億円の増額となり、市税全体では、前年比約+4.4 億円、1.6%の増となりました。また、積極的に市税収納率向上対策に取り組んだこともよい結果に結びついており、自主財源の合計では 392.4 億円となり前年度より約 9.6 億円増加したことは評価できます。また、市債については、大型事業の財源として借り入れが増加する予測でありましたが、基金を有効に活用して借り入れを抑えるなど適切に対応されています。

一方、歳出面では、前年度に対し 1.1%の増の約 640.9 億円となり、合併以降、過去最大の規模となっています。これは、大規模停電を経験し大きな教訓も残した台風 24 号の災害復旧工事があり、JR 新駅や新東名磐田スマートインターチェンジ工事が本格化したほか、優先施策に基づき、子育て・教育などの多くの課題に取り組んだ結果だと思料いたしました。

このように取り組んだ事業を見ますと、過去からの課題解決と新たな発展への源泉と期待する事業が混在しています。印象に残る事業をいくつか列挙したいと思います。

まず、「久保川プロジェクト」の完了です。10 年を超える悲願の大工事の完了は、二之宮地区中心に 93.5ha もの市内中心部を、洪水大被害を全国にもたらした台風 19 号からも守りました。

駒場霊園に「合葬墓」が整備されました。これからの市民霊園の一つの方向性を示しました。

「ひと・ほんの庭にこっと」が開館し、多くの子育て世代から支持されており、この上は更なる努力をもって磐田を代表する子育てスポットに育てていただきたいと思います。

「デマンド型乗り合いタクシー」の使い方改善も評価できます。帰宅時間予約が 1 時間短縮されたこと、市民病院まで一律に 1,000 円としたことは、市民にとって大変うれしい改革です。

付帯決議のついた「中学生スタートアップ応援事業」については、議会の意見も取り入れていただき、幅広い市民から受け入れられる事業となったことを評価したいと思います。

「生活困窮者・障がい者の就労支援の強化」への取り組みについては、就労準備支援事業に 52 人の参加者があり、そのうち 29 人の生活困窮者の就労につなげたことを評価します。

「スポーツの振興面」では、平成 30 年 4 月から、卓球場・アーチェリー場の供用が開始されたこと、ラグビーワールドカップで海外 3 チームの公認キャンプ地誘致の成功が、今日のワールドカップ盛況につながっていて嬉しい限りです。

「新東名磐田スマート IC の工事」から発生する土を、海岸防潮堤工事とつなげ、約 120m に活用したことは、長丁場の工事に、良い流れを作ったと思います。

「産業面」では、製造業 5 社と次世代型農水産業 1 社の誘致が実現できたことを評価します。

「JR 新駅」が進捗率 43%まで順調に工事が進み磐田市東部地区の発展・期待が膨らんでいます。そして「教育分野」における積極的な取り組みが目につきました。期待した不登校児童生徒数の減少が成らなかったことは残念でありましたが、放課後児童クラブを増設し、年間の延べ利用人数が 1,201 人増えたことや、中学校教員の小学校への乗り入れ授業などの工夫や、スクールソーシャルワーカーを増員する等して様々な子供を取り巻くケースに対応したり、国際化を目指してのイングリッシュ・1day・キャンプ等、小中一貫教育ならではの様々な取り組みを実施したりしていることを評価します。

反対意見がございました「ながふじ学府一体校」については、実施設計も策定され、これからの新たな学校づくりを着々と進めることに賛成です。学校が遠くなる、地域社会と離れてしまわないか等心配されることも理解しますが、地域での説明会も十分行われており、何よりも、人間同士のお互いのつながりを大きくし、地域と一体になって、「生きる力」を育み「たくましい磐田人」を育てることを目指すとする方向性を持っていることに期待しています。

また、こども園・幼稚園の民営化、学校給食の民営化に対する反対意見に対してですが、私は、管理部分の核となる部分さえ自前で持っていれば、民間委託方向に賛成の考えであります。

以上、課題解消とこれからの磐田市に向けての様々な事業が積極的に推進された平成 30 年度でありましたが、今後を見通しますと、来年度は東京オリンピック・パラリンピックがあり引き続き景気の盛り上がり期待するところではありますが、一方で世界経済は、アメリカと中国との間の貿易摩擦といった懸念材料がありますので今後の動向に留意しなければなりません。そして、少子高齢化に伴う扶助費の増加、大規模事業の進捗等により、市債の借入れや基金の取り崩しが増加することが見込まれ、将来負担比率の上昇も想定されますが、健全で持続可能な財政運営に努めながら市民の皆さんが本市に自信と誇りを持てる「まちづくり」の実現を目指して邁進していただくことを期待するところであります。

最後に、年度末に発覚した入札妨害事件について一言申し添えます。ただ今述べましたような他市と比較し素晴らしい事業推進がなされている中で事件は起こりました。

私は行政組織、そして議会にも反省すべき点、慢心・油断があったがゆえに、あってはならない今回の不祥事が、その隙間に入り込んだと思っています。

順風満帆の時・順調な時ほど、兜の緒を締めよと教訓にあります。先ほど申しました本市に自信の持てる健全で持続可能な財政運営も、健全な姿勢の中で行われてこそ価値があります。

そうした教訓に沿う運営をもって、市民の負託に、真の自信と誇りが持てる磐田市の実現を期待して、私の賛成討論といたします。

以上